大手前大学論集　第14号（2013）pp.287－318

郭沫若の中国語訳における‘着’の用法
郭沫若中文译文中‘着’的用法探析

大　高　順　雄

要　旨

1　日本語と‘着’の対照表【表1】を作成し、‘着’の使用法を示した。

2　日本語と‘着’の対照表に作品名を加えて、‘着’の分布を示した。

3　郭沫若に特有、郭沫若と魯迅に共存、魯迅に特有の‘着’を検討し、両者による‘着’の使用法の異同を作品別に示した。

4　郭沫若と魯迅とは動作・状態の継続、開始、動作の帰結を表し、虚詞の構成要素となる‘着’を日本語の文学作品に見られる多様な表現の中国語訳に使用した。

5　これにより、両者が‘着’を愛用したことを示した。

6　郭沫若、毛沢東、周恩来の政治論文･演説文において‘着’は「（動）着」、「（動）着的」、「（動）着的...了」の3語法および虚詞に限定されることを示した。

7　郭沫若は‘着’を新たな白話の構成要素とした。

鍵　語

言語	中国語‘着’	
作家と作品	芥川龍之介	『南京の基督』『蜜柑』『鼻』『羅生門』
	志賀直哉	『正義派』
	武者小路実篤	『ある青年の夢』
	郭沫若	『游学家书』
訳者と作品	郭沫若	《南京之基督》《蜜柑》《正義派》
	魯迅	《一個青年的夢》《鼻子》《罗生门》
政治論文・演説文		郭沫若　毛沢東　周恩来

‘着’は次のように解釈されている。

1　『現代汉语虚词例释』[1]は助詞‘着’に次の用法を指摘する。

1.1　動作の進行、状態、持続

1.2　動作の完成と持続

1.3　動作の方式（しばしば‘吧’を伴う）

1.4　命令ないし請求

1.5　形容詞＋着＋呢：肯定の状況（時に誇張して）

2　『現代汉语虚词』[2]によれば、‘着’は虚詞であり、動態の動作や行為の持続を表す場合と静態の性質および状態の継続を表す場合とがある。

3　『明清吴语词典』[3]によれば、‘着’は明代において助詞として、動作の完成を表し、“了”を意味した。

4　『汉语大词典』[4]は文学作品から次の5用例を掲げる。

4.1　（動詞）着　明明白白横着[5]‖落在着外面一層袖中[6]‖又去了兩次，都沒看見着[7]

4.2　（動詞）着了　我猜着了[8]

4.3　（動詞）着　你且家去說聲着[9]‖北京濫管污吏聽着[10]（命令／愿望）

4.4　（形容词）着　怜比爱少着些味道，可是更多着些人请[11]

4.5　虚詞　向着远处的天空[12]‖为着维持社会秩序的目的而发布的行政命令[13]

5　『現代汉语虚词词典』[14]は助詞‘着’の用法を次の6項目に分類する。

5.1　進行ないし持続を表す（動詞／動詞短語＋着。文中に‘正在’、ないし‘在’、文末に‘吧’を伴うことがある）。

5.2　行為、状態の持続を表す（文中に‘在’、文末に‘呢’を伴うことがある）。

5.3　動詞＋形容詞の構成において、両語の関係を表す。

5.4　形容詞＋着＋数量名詞の構成において、程度の深まりを示す。

1　北京大学中文系　1955-1957　级语言班编《现代汉语　虚词解》北京　商务印书馆　1982年9月，pp.541-2.
2　张斌・张生篇《现代汉语　虚词》上海　华东师范大学出版社　2000年10月，p.225.
3　石汝杰・宮田一郎主編《明清吴语词典》上海　世纪出版集团　上海辞书出版社　2005年1月，p.767.
4　罗竹风主编《汉语大词典》汉语大词典出版社　1992，pp.168-9.
5　鲁迅《呐喊・药》
6　《初刻拍案惊奇》卷一
7　老舍《微神》
8　《紅樓夢》第五十回
9　《金瓶梅詞花》第五五回
10　《水浒传》第六三回
11　老舍《微神》
12　鲁迅《呐喊・药》
13　毛泽东《关于正确处理人民内部矛盾的问题　一》
14　侯学超・胡双宝篇《现代汉语虚词词典》北京　北京大学出版社　1998年5月，pp.736-9.

5.5　命令を表す。

5.6　状態助詞‘着呢’は、形容詞に後接して程度の深まりを表す。

6　『中国語用例辞典　現代汉语八百词　日本語版』は、‘着’を「アスペクトを表す助詞」とし、6種の用例を掲げる。[15]

6.1　動作の進行

6.2　状態の持続：名詞（場所）＋動詞＋着＋名詞（動作の主体ないし対象）

6.3　状態・姿態

6.4　動詞1＋着＋動詞2：動詞1と動詞2の同時進行、手段（動詞1）と目的（動詞2）、状況（動詞1）に介入（動詞2）

6.5　形容詞＋着＋数量

6.6　形容詞＋着＋点儿：命令、注意

上記1、2、3に対して4、5、6は‘着’の荷重（charge）の増加を指摘している。

小論の目的は、日本語を中国語に訳す場合に、郭沫若がこの‘着’をどのように用いたかを示すことである。資料としては、【Ⅰ】文学作品として、郭沫若（筆名[16]高汝鴻）訳による芥川龍之介の『南京の基督』（A）と『蜜柑』（B）、志賀直哉の『正義派』（C）、比較のために魯迅訳による武者小路実篤の『ある青年の夢　第一幕』（D）、芥川龍之介の『鼻』（E）と『羅生門』（F）、【Ⅱ】参考として、郭沫若の『游学家书』および郭沫若、毛沢東、周恩来、蒋介石の政治論文・演説文を取り上げた。日本語資料は連体形、連用形、終止形、命令形の順に分類し、その各々の例文に対する中国語訳を併記した。また、中国語の介詞は別に付記した。

なお、本論において（動）は動詞、（形）は形容詞、（補）は補足語を示す。上記の文学作品に限り、用例は網羅した。ただし反復される同一の語法は初例のみを取り上げ、他の在所を脚注に示した。本論の内容は次のようである。

【Ⅰ　中国語訳文】			4頁
A	芥川龍之介『南京の基督』	郭沫若《南京之基督》	4頁
B	芥川龍之介『蜜柑』	郭沫若《蜜柑》	10頁
C	志賀直哉『正義派』	郭沫若《正義派》	12頁
D	武者小路實篤『ある青年の夢』	魯迅《一個青年的夢》	13頁
E	芥川龍之介『鼻』	魯迅《鼻子》	17頁
F	芥川龍之介『羅生門』	魯迅《罗生门》	19頁

15　呂叔湘主編・牛島德次監修・菱沼透訳　東京　東方書店　1992年4月，pp.444-45.
16　郭沫若の筆名については補遺を参照.

【表１】 20頁
【表２】 23頁
【Ⅱ　中国語原文】 26頁
【Ⅱ.１　游学家书】 26頁
【Ⅱ.２　政治論文・演説文】 28頁
【Ⅱ.２.１　郭沫若】 28頁
【Ⅱ.２.２　毛沢東】 29頁
【Ⅱ.２.３　周恩来】 30頁
結語 31頁
参考文献 31頁
【補遺】郭沫若の筆名 32頁

【Ⅰ　中国語訳文】

A	芥川龍之介『南京の基督』[17]	郭沫若《南京之基督》[18]
Ⅰ.1.1	各種動詞現在	a（動）着
140.9	氣輕そうに愛嬌を振りまく内	9.5　快心地獻着好意時
		b（動）着的
133.5	置きランプ	1.3　放着的洋燈
142.14	囁き聞かせる暗示	11.12　低語着的暗示
143.2	立ち姿	12.4　立着的身子
143.5	うす眼	12.6　瞇着的眼睛
		d（動）着（動）着
147.16	見る見る内に	17.7　看着看着
Ⅰ.1.2	ある	（動）着...的
144.8	龍の彫刻のある柱	13.7　雕刻着盤龍的柱
Ⅰ.1.3	ゐる	b（動）着的
144.1	並んでゐる、さまざまな料理	13.3　陳列着的種種的盛肴
		c（動）着...的
139.2	戸口に立ち塞がってゐる有様	7.12　立當着戸口的神精
147.10	彼女が眠ってゐる暇に	17.1-2　乘着她還在睡的時候
		f 在（動）着...的

17 『南京の基督』芥川龍之介全集　第四巻　東京　岩波書店　1982年8月，pp.133-49.
18 王雲五主編《漢譯世界名著　日本短編小説集（上）萬有文庫　高汝鴻譯　南京之基督　芥川龍之介》中華民國二十四（1921）年三月，pp.1-19.

140.15	こんなことを考えてゐる内	9.11	在想着這些情形的時候
Ⅰ.3.2	ゐる		a（動）着
134.15	持ち続けてゐる	2.12	一直是懷抱着
140.13-4	人だかりがしてゐる	9.9	有一團人聚集着（別構文）
Ⅰ.3.7	ゐた		a（動）着
133.5	薄暗い光を放ってゐた	1.3	吐着暗淡的光
133.7	埃臭さうな帷を垂らしてゐた	1.4	罩着塵埃垢着的帳子
134.2	...輪郭を浮かべてゐた	2.2-3	浮着...輪廓[19]
135.11-136.1	つつましやかに懸ってゐた	2.1	不顯眼地掛着[20]
139.13	金花を眺めてゐた	8.9	看着金花[21]
140.5	男らしい活力に溢れてゐた	9.3	横溢着男性的活力
140.15-6	匂いのよい煙を吐き出してゐた	9.11-2	吹吐着有香味的煙子
143.11-2	寂しい秋意を加へてゐた	13.1	加添着寂寞的秋意
146.2	まだ生暖かい仄かな闇が残ってゐた	15.4	殘留着有氤氳的幽暗
146.5	糯米のやうに細い歯が、かすかに白々と覗いてゐた	15.8	白白地微露着糯米般的細齒
148.8-9	卓を挟んでゐた	18.2-3	挾着桌面對坐着
			b 在（動）着
133.4	退屈そうに噛み破ってゐた	1.2	無聊賴地在挺着
138.8	見入ってゐた	7.4	在凝視着
144.1	さまざまな料理に箸をつけてゐた	13.3	在用着...種種的盛肴
147.5	鈍い光を放ってゐた	16.10	在放着模糊的光輝
			c 在...（動）着的
136.2	こうした確信に自ら安んじてゐた	4.10	在...安心着的
Ⅰ.5	起動表現		
Ⅰ.5.1	出す		（動）着
134.5	噛み出すのであった	2.5	慢慢地挺着
Ⅰ.5.2	出した		a（動）着
146.1	秋の明け方の光が...擴がり出した	15.4	秋晨的光...展佈着
			b（動）着了
139.11-2	一種の親しみを感じ出した	8.8	感着了一種親昵

19　同種の語法：11.8-9｜142.10
20　同種の語法：18.2-3｜148.10
21　同種の語法：12.3-4｜143.2

148.6	熱心な祈祷を捧げ出した	17.12	奉獻着了熱誠的祈禱
Ⅰ.6	譲歩表現		
Ⅰ.6.1	ゐたのでは		（動）着
135.10	こんな稼業をしてゐたのでは	4.2	這樣買賣做着
Ⅰ.6.2	ゐても		（動）着
136.6	客を取らずに引き籠ってゐても	5.1	就不接客静養着
Ⅰ.7	推量表現		
Ⅰ.7.1	ございません		（動）着
137.10	どんな誘惑に陥らないものでもございません	6.4	幾時要受着怎樣的誘惑
Ⅰ.7.2	べきであろうか		（動）着
149.6-7	夢を見させて置くべきであろうか	19.2-3	讓她去做着...夢呢？
Ⅰ.8	反復表現		
	ては		（動）着
142.9	時々パイプの煙を吐いては	11.8	時時吹吐着菸斗的煙
Ⅲ.2.1	さうな		（動）着的
133.7	埃臭さうな帷	1.4	塵埃垢着的帳子
Ⅲ.2.2	やうな		（動）着...的
141.5	答えを待つやうな眼つき	10.3	等待着回答的顔色
143.8	燃えるやうな戀愛	12.8-9	燃燒着般的戀愛
Ⅲ.2.3	らしい		（動）着...的
138.15	縞目のあるらしい茶の背広	7.10	穿着有條紋的茶色的洋服
Ⅲ.2.4	た		a（動）着
141.15	手真似と身ぶりとの入り交った押し問答を続けてゐた	10.11	雜用着手法和身勢又一問一答地継続了勢又
143.4	後へ向けた儘	12.5-6	朝後仰着
143.5	鼻の先に迫った彼の顔へ	12.6	望着逼向鼻尖來的他的面孔
144.13-4	箸を持った儘	14.1	拿着筷子
141.16	一本づつ指の数を増した揚句	10.12	指頭一根復一根地增添着
			b（動）着的
133.4	盆に入れた西瓜の種	1.2	盤裏盛着的黑瓜子
133.6	壁紙の剥げかかった部屋	1.4	壁紙破着的室内
138.14	呆気にとられた視線	7.9	吃驚着的視線
139.6	横咽へにしたパイプ	8.3-4	横含着的菸斗

140.4	赤くなった顔	9.2	醉紅着的面孔
140.8	額に懸った、黒い捲き毛	9.5	額上垂着的黑色的捲髮
142.3	釘に懸ってゐた十字架	11.2	釘上懸着的十字架
142.5-6	彫られた、受難の基督の顔	11.4-5	雕着的受難的耶蘇像
143.5	恍惚としたうす眼	12.6	恍惚着的瞇着的眼睛
143.12	埃じみた寝台の帷	13.1	塵埃着的床帷
147.2	重そうに下がった帷	16.6	重重地垂着的床帷
147.5	西瓜の種が散らばった中	16.9-10	散亂着的瓜子中
147.6	取り亂した寝台の上	16.11	狼藉着的寢台上
148.5-6	言葉を交はした...マリアのように	17.11-2	交設着的...瑪麗亞一樣
			c（動）着...的
133.6-7	毛布のはみ出した籐の寝台	1.4	鋪着氈的藤床
136.7	迷信じみた療法	5.3	帶着迷信的療法[22]
138.15	鳥打帽をかぶった...男	7.10	戴着...鳥打帽...的
138.6-7	床に敷きつめた石	7.2	面着地陣的石板
142.8	酒気を帶びた顔	11.8	帶着酒意的臉
142.10	翡翠の環を下げた耳	11.9	掛着翡翠耳環的耳際
143.1	うす笑いを浮かべた眼	12.3	浮着笑意的眼睛
144.3	べた一面に青い蓮華や鳳凰を描き立てた、立派な皿小鉢	13.4	全身畫着青色的蓮花和金線的鳳凰的小盤和小椀
144.14-5	緞子の布團を敷いた紫檀の椅子	14.2	在敷着緞子坐墊的紫擅椅
146.2	埃臭い帷を垂れた	15.4	垂着塵埃的帳帷
			e（動）着（動）着的
143.5	恍惚としたうす眼	12.6	把恍惚着瞇着的眼睛
			f（動）着...了
33.12-3	いやな奴に出あったものだ	44.3	遇着討厭的東西了
Ⅲ.2.5	だ		a（動）着...的
142.15	微笑んだ眼	12.1	含着微笑的眼睛
Ⅲ.3.1	て		a（動）着
133.4	頬杖をついて	1.2	用手把臉撐着
134.10	愉快そうな微笑を浮かべて	2.8	浮着愉快的微笑

22　同種の語法：7.4-5－138.8-9｜7.7－138.11｜11.8－142.8｜12.5-6－143.4

134.16　葉巻を啣へて
143.5　鮮やかな血の色を仄めかせて
138.12　その光をまともに浴びて
139.6　首を振って
142.8　小首を傾けて
141.2-3　器用に西瓜の種を鳴らして
142.15　そっと...眼を伏せて
144.8　時々箸を止めて
144.10-1　暖な香気を漲らせて
146.5　髪が亂れて
149.12　晴れ晴れと顔を輝かせて

Ⅲ.3.2　で

148.8-9　卓を挟んで

Ⅲ.4.1　た

135.6　糸切歯の見える笑を洩らした
136.13　軽く聞き返した
137.3　かう云ふ祈祷を捧げた
139.6　わからないと云ふ合図をした
139.9　美しい眉をひそめた
142.2-3　何度も続けさまに頭を振った
143.3　金花を抱きすくめた
145.7　遠慮がましい聲をかけた
145.9　無限の愛を含んだ微笑を洩らした
149.12　少しもためらはずに返事をした
133.11　じっと眺めやる事があった
143.8-9　知るばかりであった

Ⅲ.4.6　ます

137.4　賤しい商売を致して居ります

Ⅳ.1　の

138.9　ペンキ塗りの戸

Ⅳ.2　ながら

3.2　含着香菸[23]
12.6　閃着新鮮的血色,
7.7　正面地受着燈光
8.3　把頭擺着
11.11　把頭偏着
10.2　巧妙地挺着瓜子
12.1　把...眼睛隱隱地埋着
13.7　時時把箸停着
13.9　放着暖和和的香味
15.8　頭髮零亂着
19.8　呈着爽快的面孔

a（動）着

18.2-3　挾着桌

a（動）着[24]

3.10　洩着露齒的微笑
5.6　她輕輕地反問着
5.10　獻着這樣的祈禱
8.3　表示着不懂
8.6　把美好的眉頭蹙着
11.2　接連着擺了好幾次頭
12.5　把金花抱着
14.8　她客氣地招呼着
14.10　露着包有無限愛意的微笑
19.8　毫沒躊躇地答應着
1.8　靜眺着
12.8-9　只是感覺着

b 在（動）着

5.12　在做着這樣卑賤的職業

（動）着...的

7.5　上着油漆的門

a（動）着

23　同種の語法：7.12－139.2｜14.10－145.9
24　石汝杰・［日］宮田一郎主编《明清吴语词典》上海辞书出版社　2003，p.767，“着”11.〈动〉作补语，表现过到某个预期的结果．到．14.〈助〉表示完成．即“了”．

139.9	大声に笑いながら	8.6	大聲地笑着
147.9	呟きながら	17.1	自語着
			b（動）着（補）
134.1-2	両腕をひろげながら	2.2	展着兩手
139.12	盆の上の西瓜の種をつまみながら	8.8	抓着盤裏的瓜子
140.8-9	黒い捲き毛を眺めながら	9.5	望着客人額上垂着的黑色的捲髮
142.15-6	真鍮の十字架を手まさぐりながら	12.1-2	弄着銅十字架
144.15-6	真鍮の水煙管を啣へながら	14.3	含着青銅的菸頭
147.15	重い胸を抱きながら	17.6	抱着沉悶的心境
149.12	西瓜の種を嚙りながら	19.8	挺着瓜子
cf.			
143.1	銀の音をさせながら	12.3	弄得銀錢響着（別構文）
			c（補）（動）着
134.5	肩を...落しながら	2.4-5	把...肩...垂着
142.8	酒気を帯びた顔を光照らせながら	11.8	帶着酒意的臉紅着
143.7-8	彼女の口を任せながら	12.8	把自己的口任憑着
V.1	儘		（動）着
148.5	襯衣の儘	17.11	穿着汗衫
V.2	と		a（動）着
140.16	おとなしくにやにや笑ふと	9.12	規矩地微笑着
			b（動）着了
147.15-6	突然その手を止めると	17.6	她突然把手止着了
V.3	副詞句		虛詞
V.3.1	で		用着
135.2	覚束ない支那語で	3.3-4	用着甚當行的中國
V.3.2	に		接着
138.5	その内に	6.12-7.1	接着[25]
V.3.3	へ		向着
138.12	卓の方へ	7.7	向着桌面[26]
V.3.4	も		接連

25　同種の語法：8.3-4｜139.5
26　同種の語法：9.8-140.11｜12.1-142.16｜16.9-147.4

142.2-3　何度も
V.3.5　餘計
134.12　一杯でも餘計
V.3.6　（その他）
134.16　かたがた
140.10　肥った奥さんと一緒に

11.2　接連着
剩着
2.9　儘剩着...多喝一杯
帶着
3.1-2　同時也兼帶着
9.7　帶着胖子太太一道[27]

B　**芥川龍之介『蜜柑』[28]**　**郭沫若《蜜柑》[29]**

I.1.1　各種動詞現在現在
27.3　平凡な記事で埋まっている夕刊
28.13-4　振るであろう...旗
29.8　乱落する鮮やかな蜜柑の色

b（動）着的
23.4　由平庸的記事埋沒着的晚報
24.12　所搖着的...旗
25.6　亂墜着的鮮明的蜜柑色彩

28.3-4　ハンケチを顔に当てる暇
I.1.3　いる
28.15-6　並んで立っているのを見た
I.3.2　いる
28.6　汽車の進む方向を見やっている
29.12-3　三等切符を握っている
I.3.7　いた
25.3　待っていた
25.5　吠え立てていた
25.7　落としていた
27.18　眺めていた
28.14　暮色を揺すっていた

c（動）着...的
24.4-5　障着顏面的機會
a（動）着
25.1　我看見了...翹首駢立着
（動）着
24.6-7　望着火車行的方向
25.12-26.1　握着那三等車票
a（動）着
21.2　等待着
21.4　吠着
21.5　浮着
24.1　望着
24.12　在暮色中搖動着

25.10　待ちかまえていた
III.2.4　た
24.4-5　読みかけた夕刊
29.3　汽車を見送った子供たち

b 在（動）着
21.7　在等待着
b（動）着的
23.5　把讀着的晚報
25.4　送着火車的男孩子

27　同種の語法：11.8-142.9
28　芥川龍之介『舞踏会・蜜柑』東京　角川書店　平成八（1996）年六月　pp.25-9.
29　王雲五主編《漢譯世界名著　日本短編小説集（上）萬有文庫　高汝鴻譯　蜜柑　芥川龍之介》中華民國二十四（1921）年三月，pp.21-6.

29.5	懐に蔵していた幾この蜜柑	25.6	懷中瑞着的幾個蜜柑
cf.			
28.17	着物を着ていた	25.1	所穿着的衣裳（別構文）
			c（動）着...的
29.7	暮色を帯びた町はずれの踏切	25.7	帶着暮色的村外的路口
29.12	大きな風呂敷包みをかかえた手	25.12	抱着大的包袱的手
Ⅲ.2.5	だ		b（動）着了的
28.8	ようやく咳きやんだ私	24.8	好容易喀止着了的我
Ⅲ.3	連用形		
Ⅲ.3.1	て		a（動）着
26.5	銀杏返しに結って	22.4	結着一個卷鬢
27.5	眼をつぶって	23.6	把眼睛閉着
27.18	凄まじい音をはためかせて	24.2	曳着猛烈的聲音
			b（動）着了
27.7	何かに脅かされたような心もちがして	23.7	像感受着了什麼脅迫
Ⅲ.3.2	で		（動）着
28.13	狭苦しく建て込んで	24.11	不堪地建立着
Ⅲ.4.1	た		a（動）着
27.2	意識せずにはいられなかった	23.2-3	不用說依然是意識帶着
26.7	大きな風呂敷包みがあった	22.5	抱着一個龐大的單包子（別構文）
28.4	この煙を満面に浴びせられた	24.5	滿面被那煤煙濯蕩着
28.6-7	その姿を...眺めた	24.7	把那個姿勢...瞭望着
Ⅳ.1	の		（動）着...的
29.2	霜焼けの手	25.3	生着凍瘡的手
Ⅳ.2	ながら		b（動）着（補）
26.17-8	錯覚を感じながら	23.1	起着一種錯覺
27.16	険しい感情を蓄えながら	24.1	懷着不平的感情
			d（動）着了（補）
25.10	寛ぎを感じながら	21.7	感覺着了一些心境的緩和
			e 在...（動）着
28.6	鬢の毛を戦（そよ）がせながら	24.6	卷鬢毛在暗風中吹蕩着
Ⅴ.3	副詞句		虛詞

			偕着
27.7	それから	23.7	偕着
	ともに		偕着
25.13	いいののしる声とともに	21.9	偕着叱責聲
	で		帶着
27.1	面持ちで	23.3	帶着一個...面孔的

C	志賀直哉著『正義派』[30]	郭沫若《正義派》[31]
Ⅰ.1.1	各種動詞現在	a（動）着
230.9	巻くブレーキ	36.1 轉着掣動器
Ⅲ.2.4	た	a（動）着
230.8	女の子は仰向けになった儘	35.6 女児仰臥着
230.2	二十一二の母親に連れられた五つばかりの女の子	35.2 一位五歳大的女児、被二十一二歳的母親牽着（別構文）
		b（動）着的
231.5-6	離れた処	36.8 隔着的地方
		d（動）着了...的
233.7-8	乗り合わせていた男	38.11 乘着了那部車的
233.8	少し離れた処	g 在...（動）着
		38.11 在稍稍隔離着（別構文）
Ⅲ.3	連用形	
Ⅲ.3.1	て	a（動）着
230.5	電車を背にして	35.5 背着電車
232.6	硬くなって	36.8 木強着
232.15	圧迫に耐えて	38.3 抵當...圧迫
232.15-6	悪意のある微笑さえ浮かべて	38.4 浮着寧有悪意的微笑
233.3	或間隔を取って	38.5 取着一些間隔
233.5	俥を連ねて	38.9 連着人力車
Ⅲ.4.1	た	a（動）着
230.8	すくんでしまった	35.7 驚辛竦着
232.9	只頭を下げた	37.11 把頭埋着

30　志賀直哉著『清兵衛と瓢箪・網走まで』新潮文庫　1801　東京　新潮社，平成2年　pp.230-39.
31　《日本短編小説集　上　高汝鴻選譯（1912年8月）萬有文庫》上海　商務印書館　中華民國二十四年（1921）三月，pp.35-44.

Ⅲ.4.2	だ		
232.3	事実を云うんだ	37.6	照着事實説（別構文）
Ⅳ.2	ながら		a（動）着
233.2	ベルを踏みながら	38.6	踏響着鈴子
Ⅴ.3	副詞句		虚詞
Ⅴ.3.1	向って		向着
203.5	此方に向って	35.3	向着這邊
Ⅴ.3.2	打って		隨着
230.14	車體が大きく波を打って	36.34	隨着起了大震蕩
Ⅴ.3.3	以って		靠着
232.14-5	或興奮と努力を以って	38.3	靠着某種奮興努力
Ⅴ.3.4	従って		跟着
233.3	それに従って	38.7	跟着

D	**武者小路實篤『ある青年の夢』**[32]	**魯迅《一個青年的夢》**[33]
Ⅰ.1.1	各種動詞現在	a（動）着
33.17	ゆきちがふ時に	44.7 遇着
		b（動）着的
32.9-10	喜ぶ時代	42.12 高興着的時代
60.5	生きられる時代	74.9 生活着的時代
Ⅰ.1.3	ゐる	b（動）着的
40.19	困ってゐる人	52.8 窘着的
11.15	禁じられてゐるうちに	18.11 被禁着的時候
17.20	生きてゐる者	26.12 活着的人[34]
36.1-2	生きてゐる心算にして	47.7 照了活着一般的説的
		d（動）着…罷了
52.6	平和に憧れてゐるだけです	66.3 慕着和平罷了
		e 在（動）着的
24.13	生きてゐる方々	34.1 在活着的諸君[35]

32 『ある青年の夢』武者小路実篤全集　16　東京　新潮社　昭和三十一年“序”第一幕，pp.7-62.
33 《魯迅訳　武者小路實篤作　一個青年的夢　魯迅全集》20，中華民國二十七年（1938），pp.7-77.
34 同種の語法：活着的人　27.3-18.6｜27.4-18.10｜27.10-18.15｜33.4-23.18｜39.1-29.1｜39.13-29.17-8｜42.4-67.6｜52.7-40.18｜56.2-58.1｜57.1-44.1｜59.7-46.15｜63.3-50.1‖活着的诸君　50.3-38.13‖活着的时候　38.10-29.1｜30.6-21.4｜56.11-44.6｜58.9-45.2｜59.10-1-47.1
35 同種の語法：34.2-24.14

26.8	生きてゐる間	36.3	在我活着的時候
Ⅰ.1.4	ない		（動）着
23.7-8	そんな目にあはない迄は	32.9-10	沒有遇着這些事以前[36]
Ⅰ.2	連用形		
Ⅰ.2.1	し		（動）着
30.3	握手し	40.4	握着手
Ⅰ.3.1	各種動詞現在		（動）着
9.12	俺の正體を感じる	16.4	感着我的正體[37]
13.11	平和主義をとなへる	21.1	唱到着和平主義
Ⅰ.3.2	ゐる		a（動）着
11.11	自慢にしてゐるのか	18.8	自滿着
11.8	見知らぬ者に睨まれてゐる	18.6	被不識着瞪視着
17.19	呑気にしてゐる	26.9-10	悠悠然的生活着
21.15	興奮しながら何か考えてゐる	30.13	興奮的想着
36.9	戦ってゐる	47.12	戰着[38]
60.11-2	支配してゐるのです	74.13	支配着
			b（動）着的
15.18	泣いてゐる	24.1	哭着的
57.7	助けあってゐる	71.8-9	互助着的
Ⅰ.3.3	ゐます		a（動）着...的
33.1	それに反対されてゐます	43.7	反對着這事的
44.6-7	生きてゐます	56.11	活着的
			b 在（動）着
26.12	後悔してゐます	36.6	在後悔着
Ⅰ.3.4	ゐられる		（動）着
10.11-2	呑気にしてゐられる	17.6	會悠然的活着[39]
Ⅰ.3.5	ゐられます		（動）着
59.14-5	それをのぞんでゐられます	74.1-2	希望着如此
Ⅰ.3.6	ゐらっしゃる		（動）着
52.14	いかなる考を持ってゐらっしゃるか	66.8	懷着什麼意見

36　同種の語法：41.12-31.12｜61.4-48.9
37　同種の語法：52.12-41.3
38　同種の語法：47.13-36.1
39　同種の語法：31.13-22.13-4｜38.9-29.11-2

Ⅰ.4.1	なさい		（動）着了...罷
23.8	あってご覧なさい	32.10	遇着了試試罷
Ⅰ.4.2	おけ		（動）着罷
17.15	お前の力の許す限り見ておけ	26.6	儘你的力量看着罷[40]
Ⅰ.4.3	下さい		（動）着罷
29.2	生きられるだけ生きて下さい	40.1-2	請儘能活的活着罷
Ⅱ.1	がいい		（動）着
13.6	見ているがいゝ	20.6	看着就走[41]
Ⅱ.2	ばいゝ		（動）着
9.11	お前は俺を見てゐればいゝ	16.3	你看着我就是了
Ⅱ.3	もいゝ		（動）着
43.17	生きてゐらっしゃってもいゝ	56.5	不知道的活着
Ⅲ	助動詞		
Ⅲ.1	未然形		
Ⅲ.1.1	ら		（動）着了
24.6	私のやうな目にあったら	33.9	遇着了我這様的事
Ⅲ.2.4	た		a（動）着
25.12	あっと立ちどまった瞬間	35.3	剛喫驚的立着時
			c（動）着...的
26.12	あなたたちをあづけた士官	36.5	寄頓着你們的士官
			d（動）着了...的
17.18	恐ろしい事実にあった人々	26.9	遇着了可怕的事實的人們
Ⅲ.3.1	て		a（動）着
28.17	眼に涙をためて	38.11	滿眼含着淚
51.1	黙って帰る	64.13	默着回去
			c（動）着...罷
23.5	起こり得る	32.8	遇着...罷（別構文）
Ⅲ.4.1	た		a（動）着
22.8	小刀をもってゐました	31.10-1	拿着一把小刀[42]
25.1	空想してゐました	34.8	空想着

40　同種の語法：26.12-17.20
41　同種の語法：26.4-17.12｜26.9-17.15｜26.4-17.12-3
42　同種の語法：44.3-33.12

25.4	聞いてゐました	34.11	聽着[43]
26.12	あなたたちをあづけた	36.5	寄頓着你們
31.15	考へてゐました	42.1	想着[44]
			b（動）着的
20.2-3	生きてゐられた	29.4-5	生活着的
22.5	見てゐました	31.8	看着的
			c（動）着了
31.16	やられた	42.2	打着了
Ⅲ.4.3	たい		（動）着
18.13	幸福にしたい	27.9	得着幸福
Ⅲ.4.4	だろう		a（動）着
52.17	多いだろうと思ひます	66.9	多着呢
			b（動）着罷
15.20	着物がやぶれてゐるだらう	24.2	衣服破着罷
			c（動）着...罷
47.19	人々を死以上の苦しみに今も遇はせてゐることだろう	60.11	教人正受着死以上的苦罷
Ⅲ.4.5	たろう（マ マ）		（動）着
20.2	語るのに忙しかったらう	30.3.1	正忙着講
Ⅲ.4.6	ます		a（動）着
46.12	私は今それを恥ぢます	59.4	現在羞愧着這件事
54.2	想像します	69.1	想像着
61.11	平和にあこがれます	76.1	仰慕着和平
Ⅲ.4.7	ません		（動）着
45.16	見てゐなければなりません	58.7	能眼看着
45.17	辛抱しなければいけません	58.7	忍耐着
Ⅳ.3	ば		（動）着
20.18-9	もし私が今まで生きてゐれば	30.2	假使我現在還活着[45]
Ⅳ.4	よ		（動）着...罷
9.9	正視して見よ	16.1	正視着試試罷
Ⅴ.3	副詞句		虛詞

43　同種の語法：53.11-41.17
44　同種の語法：55.1-43.7｜57.5-44.16
45　同種の語法：1.2-30.16｜76.11-62.4

V.3.1	向かって		向着
9.2	大きな机に向かって	15.3	向着大桌子
V.3.2	に		對着
28.16-7	愛する者や、親に	28.11	對着愛人和父母說[46]

E	**芥川龍之介『鼻』**[47]	**鲁迅《鼻子》**[48]	
I.1.1	各種動詞現在		a（動）着
30.13	手にさわるもの	87.28	触着手的
			c（動）着...的
20.6	当来の浄土を渇迎すべき僧侶の身	83.8	渴仰着将来的净土的和尚
21.6	こういう鼻をしている禅智内供	83.18	有着这样鼻子的内供
26.5-6	...手術を受ける患者	85.27-8	受着...手术的时候的病人
I.1.2	ある		（動）着
28.15	二つの感情がある	87.2	有着...两样的感情
I.3.2	いる		a（動）着
27.2	残喘を保っている	86.8	抱着一点残喘
29.11	尨犬を逐いまわしている	87.11	追着...狗
29.12	ただ、逐いまわしている	87.12	单是追着跑
24.9	毎日湯を沸かしている	85.7	每日都烧着
			b（動）着的
25.8-9	鼻を踏まれている	85.18	鼻子是被踏着的
			c（動）着...的
22.7	日ごとに湯を沸かしている	84.8	每日烧着水的
29.13	逐いまわしている	87.13	追着跑的
24.15	鼻の話とは	85.12	说着鼻子的（別構文）
			d（動）着罢了
20.3	ぶら下がっている	83.5	在脸中央拖着罢了
I.3.7	いた		a（動）着
20.5	この鼻を苦に病んでいた	83.6	苦着这鼻子
22.6	人の鼻を気にしていた	84.7	留心着别人的鼻子

46 同種の語法：55.3-42.15｜75.1-60.12
47 芥川龍之介作『羅生門・鼻・芋粥・偸盗』岩波文庫　2012年4月，pp.19-31.
48 《鲁迅译文全集　第二卷　现代日本小说集》北京鲁迅博物馆编　福建教育出版社　2008年3月，pp.83-8.

27.13	内供の鼻ばかり眺めていた	86.17	看着内供的鼻子
27.15	可笑しさをこらえていた	86.20	忍着笑
Ⅲ.2.4	た		a（動）着
26.11	八の字をよせたまま	86.2	仍然皱着眉
			b（動）着的
28.10	誦しかけた経文	86.29	停了唪着的经文
Ⅲ.3.1	て		a（動）着
23.14	風をして	84.28	装着...模样
29.11	木の片をふりまわして	87.11	挥着...木板
24.11	湯気に吹かれて	85.8	蒸汽吹着
26.11	不服らしい顔をして	86.2	装着不平似的脸
Ⅲ.3.3	ても		（動）着
24.12	熱い湯の中へ浸しても	85.10	浸着热汤
28.1-2	慎んで聞いていても	86.21	虽然恭敬的听着
Ⅲ.4	終止形		
Ⅲ.4.1	た		a（動）着
22.9	人々の顔を根気よく物色した	84.9	物色着这类人们的脸
26.14	短くなった鼻を撫でながら...覗いて見た	86.4	模着缩短的鼻子...望看着
Ⅳ.2	ながら		a（動）着
21.6	顔を映しながら	84.2	照着脸
25.5	内供の禿げ頭を見下ろしながら	85.16	俯视着内供的秃头
25.9-10	弟子の僧の足に皸の切れているのを眺めながら	85.19	看着弟子脚上的皲裂
28.10	禿げ頭を傾けながら	86.29	侧着秃头
28.11-2	普賢の画像を眺めながら	86.30	眺着...普贤像
29.13	囁しながら	87.12-3	一面嚷道
30.7	鼻を抑えながら	87.21	按着鼻子
Ⅳ.3	副詞句		虚詞
Ⅳ.3.1	を		对着
26.14	弟子の出してくれる鏡を	86.4-5	对着弟子拿过来的镜子

F	芥川龍之介『羅生門』[49]	鲁迅《罗生门》[50]
Ⅰ.1.1		c（動）着...的
9.9	藁草履をはいた足	登着草鞋的脚
Ⅰ.3.1	ある	（動）着
10.7	いくつかの死骸が、無造作に棄てて ある	抛着几个死尸
Ⅰ.3.2	いる	a（動）着
6.3	蟋蟀（きりぎりす）が一匹とまっている	停着一匹蟋蟀
9.12	その男の右の頬をぬらしている	照着男人的颊
10.2	火をとぼしている	能明着火的
Ⅰ.3.7	いた	a（動）着
6.1	雨やみを待っていた[51]	待着雨住
7.14-5	途方に暮れていた	想着...怎吗办
8.4	雨の音を...聞くともなく聞いていた	听著那从先前便打着...雨声
9.11	上の容子を窺っていた	窥探着楼上的情形
10.14	永久に唖の如く黙っていた	哑似的永久的默着
11.5	死骸の一つの顔を覗き込むように眺 めていた	注视着死尸之一的脸
15.8	この話を聞いていた	听着些话
Ⅲ.2.4	た	a（動）着
6.8	丹がついたり、金銀の箔がついたり した木	带着丹漆，带着金银箔的木 块
9.4	山吹の汗衫に重ねた、紺の襖	衬着淡黄小袄
14.14	髪を抜いた女	拔着那头发的女人
14.10-1	長い抜け毛を持ったなり	捏着...长发
		c（動）着...的
7.3	胡麻をまいたように	撒着胡麻似的
12.13	弾かれたように	弹着似的
Ⅲ.3.1	て	a（動）着
7.2	輪を描いて	89.14 转着

49 芥川龍之介作『羅生門・鼻・芋粥・偸盗』岩波文庫　2012年4月，pp.5-17.
50 《鲁迅译文全集　第二卷　现代日本小说集》北京鲁迅博物馆编　福建教育出版社　2008年3月，罗生门　pp.89-93.
51 同種の語法：7.9-90.4

8.2	明日の暮らしをどうにかしようとして	90.7	想着那明天的活计怎么办
9.14	火をとぼして	91.2	明着火
10.11	口を開いたり手を延ばしたりして	91.10-1	或者张着嘴或者伸着手
10.13	ぼんやりした火の光をうけて	91.12	受着淡淡的光
11.5	火をともした松の木切れを持って	91.18	拿着点火的松明
Ⅲ.4.1			a（動）着
13.2	無言のまま、つかみあった	92.10	默然的叉着
Ⅳ.1	の		a（動）着
13.4	骨と皮ばかりの腕	91.12	剩着皮骨...臂膊
Ⅳ.2	ながら		a（動）着
7.2	啼きながら	89.14	啼着
7.7-8	面皰を気にしながら	89.19	恼着...面疱
9.4	頸をちぢめながら	90.21	缩着颈子
9.8-9	気をつけながら	90.24	留心着
12.15	死骸につまずきながら	92.9	绊着死尸
13.13	老婆を、見下ろしながら	92.15	俯视着老妪
15.9-10	面皰を気にしながら	93.13	按着...面疱
Ⅴ.2	副詞句		虚詞
	て		挟着
16.9	わきにかかえて	93.23	挟着

【表１】

日本語と‘着’との対応

‘着’は日本語における動詞の連体形、連用形、終止形、命令形、特に起動表現、譲歩表現、推量表現、形容詞の終止形、助動詞の未然形、連体形、終止形に対応する。また、‘着’は副詞句に対する虚詞として用いられる。

Ⅰ　連体形

Ⅰ.1.1	各種動詞現在	a（動）着
		b（動）着的
		c（動）着...的
		d（動）着（動）着
Ⅰ.1.2	ある	a（動）着
		b（動）着...的

I.1.3	ゐる	a（動）着
		b（動）着的
		c（動）着...的
		d（動）着...罷了
		e 在（動）着的
		f 在（動）着...的
I.1.4	ない	（動）着
I.2	連用形	
I.2.1	し	（動）着
I.3	終止形	
I.3.1	各種動詞現在	（動）着
I.3.2	いる／ゐる	a（動）着
		b（動）着的
		c（動）着...的
		d（動）着...罢了
I.3.3	ゐます	a（動）着...的
		b 在（動）着
I.3.4	ゐられる	（動）着
I.3.5	ゐられます	（動）着
I.3.6	ゐらっしゃる	（動）着
I.3.7	いた／ゐた	a（動）着
		b 在（動）着
		c 在...（動）着的
I.4	命令形	
I.4.1	なさい	（動）着了...罷
I.4.2	おけ	（動）着罷
I.4.3	下さい	（動）着罷
I.5	起動表現	
I.5.1	出す	（動）着
I.5.2	出した	a（動）着
		b（動）着了
I.6	譲歩表現	
I.6.1	ゐたのでは	（動）着
I.6.2	ゐても	（動）着

Ⅰ.7	推量表現	
Ⅰ.7.1	ございません	（動）着
Ⅰ.7.2	べきであろうか	（動）着
Ⅰ.8	反復表現	
	ては	（動）着
Ⅱ	形容詞終止形	
Ⅱ.1	がいゝ	（動）着
Ⅱ.2	ばいゝ	（動）着
Ⅱ.3	もいゝ	（動）着
Ⅲ	助動詞	
Ⅲ.1	未然形	
Ⅲ.1.1	ら	（動）着了
Ⅲ.2	連体形	
Ⅲ.2.1	さうな	（動）着的
Ⅲ.2.2	やうな	（動）着...的
Ⅲ.2.3	らしい	（動）着...的
Ⅲ.2.4	た	a（動）着
		b（動）着的
		c（動）着...的
		d（動）着了...的
		e（動）着（動）着的
		f（動）着...了
		g　在...（動）着
Ⅲ.2.5	だ	a（動）着...的
		b（動）着了的
Ⅲ.3	連用形	
Ⅲ.3.1	て	a（動）着
		b（動）着了
		c（動）着...罷
Ⅲ.3.2	で	（動）着
Ⅲ.3.3	ても	（動）着
Ⅲ.4	終止形	
Ⅲ.4.1	た	a（動）着
		b（動）着的

		c（動）着了
Ⅲ.4.3	たい	（動）着
Ⅲ.4.4	だろう	a（動）着
		b（動）着罷
		c（動）着...罷
Ⅲ.4.5	たろう（マ マ）	（動）着
Ⅲ.4.6	ます	a（動）着
		b 在（動）着
Ⅲ.4.7	ません	（動）着
Ⅳ	助詞	
Ⅳ.1	の	（動）着...的
Ⅳ.2	ながら	a（動）着
		b（動）着（補）
		c（補）（動）着
		d（動）着了（補）
		e 在...（動）着
Ⅳ.3	ば	（動）着
Ⅳ.4	よ	（動）着...罷
Ⅴ	状況補足語	
Ⅴ.1	儘	（動）着
Ⅴ.2	と	a（動）着
		b（動）着了
Ⅴ.3	副詞句	虚詞

【表 2】

郭沫若と魯迅の‘着’の使用と作品

1）	郭沫若	［頻度35］	作品
Ⅲ.2.4	た	b（動）着的	ABC
Ⅰ.3.7	いた／ゐた	b 在（動）着	AB
Ⅲ.3.1	て	b（動）着了	AB
Ⅳ.1	の	（動）着...的	AB
Ⅳ.2	ながら	b（動）着（補）	AB
Ⅰ.1.1	各種動詞現在	d（動）着（動）着	A
Ⅰ.1.2	ある	b（動）着...的	A

Ⅰ.1.3	ゐる	f　在（動）着...的	A
		c（動）着...的	A
Ⅰ.3.7	いた／ゐた	c　在...（動）着的	A
Ⅲ.2.1	さうな	（動）着的	A
Ⅰ.5.1	出す	（動）着	A
Ⅰ.5.2	出した	a（動）着	A
		b（動）着了	A
Ⅰ.6.1	ゐたのでは	（動）着	A
Ⅰ.6.2	ゐても	（動）着	A
Ⅰ.7.1	ございません	（動）着	A
Ⅰ.7.2	べきであろうか	（動）着	A
Ⅰ.8	ては	（動）着	A
Ⅲ.2.2	やうな	（動）着...的	A
Ⅲ.2.3	らしい	（動）着...的	A
Ⅲ.2.4	た	e（動）着（動）着的	A
Ⅲ.2.4	た	f（動）着...了	A
Ⅲ.2.5	だ	a（動）着...的	A
Ⅲ.4.6	ます	b　在（動）着	A
Ⅳ.2	ながら	c（補）（動）着	A
Ⅴ.1	儘	（動）着	A
Ⅴ.2	と	a（動）着	A
		b（動）着了	A
Ⅰ.1.3	ゐる	a（動）着	B
Ⅳ.2	ながら	d（動）着了（補）	B
		e　在...（動）着	B
Ⅲ.2.5	だ	b（動）着了的	B
Ⅲ.3.2	で	（動）着	B
Ⅲ.2.4	た	g　在...（動）着	C
Ⅴ.3	副詞句	虚詞	ABC

（注）　郭沫若の使用例は35を数える。

虚詞の使用も頻繁である。A：用着、接着、向着、剩着、帯着

B：偕着、帯着

C：向着、随着、靠着、跟着

2）	郭沫若と魯迅	［頻度13］	
Ⅲ.3.1	て	a（動）着	ABC-DEF
Ⅲ.4.1	た	a（動）着	ABC-DEF
Ⅴ.3	副詞句	虚詞	ABC-DEF
Ⅰ.3.2	いる／ゐる	a（動）着	AB-DEF
Ⅲ.2.4	た	a（動）着	AC-DEF
Ⅰ.1.1	各種動詞現在	a（動）着	AC-DE
Ⅲ.2.4	た	c（動）着...的	AB-DF
Ⅰ.3.7	いた／ゐた	a（動）着	AB-EF
Ⅳ.2	ながら	a（動）着	AC-EF
Ⅰ.1.1	各種動詞現在	b（動）着的	AB-D
Ⅰ.1.1	各種動詞現在	c（動）着...的	B-EF
Ⅰ.1.3	ゐる	b（動）着的	A-D
Ⅲ.2.4	た	d（動）着了...的	C-D
（注）	郭沫若と魯迅は13例を共有する。		
3）	魯迅	［頻度38］	
Ⅰ.3.2	いる／ゐる	b（動）着的	DE
Ⅰ.3.1	各種動詞現在	（動）着	DF
Ⅰ.1.3	ゐる	d（動）着...罷了	D
		e 在（動）着的	D
Ⅰ.1.4	ない	（動）着	D
Ⅰ.2.1	し	（動）着	D
Ⅰ.3.3	ゐます	a（動）着...的	D
		b 在（動）着	D
Ⅰ.3.4	ゐられる	（動）着	D
Ⅰ.3.5	ゐられます	（動）着	D
Ⅰ.3.6	ゐらっしゃる	（動）着	D
Ⅰ.4.1	なさい	（動）着了...罷	D
Ⅰ.4.2	おけ	（動）着罷	D
Ⅰ.4.3	下さい	（動）着罷	D
Ⅱ.1	がいゝ	（動）着	D
Ⅱ.2	ばいゝ	（動）着	D
Ⅱ.3	もいゝ	（動）着	D
Ⅲ.1.1	ら	（動）着了	D

Ⅲ.3.1	て	c（動）着...罷	D
Ⅲ.4.1	た	b（動）着的	D
		c（動）着了	D
Ⅲ.4.3	たい	（動）着	D
Ⅲ.4.4	だろう	a（動）着	D
		b（動）着罷	D
		c（動）着...罷	D
Ⅲ.4.5	たろう	（動）着	D
Ⅲ.4.6	ます	a（動）着	D
Ⅲ.4.7	ません	（動）着	D
Ⅳ.3	ば	（動）着	D
Ⅳ.4	よ	（動）着...罷	D
Ⅰ.1.2	ある	a（動）着	E
Ⅰ.3.2	いる／ゐる	c（動）着...的	E
		d（動）着...罢了	E
Ⅲ.3.3	ても	（動）着	E

（注）　魯迅の‘着’使用例は38を数える。虚詞としての使用はD：向着、對着；E：対着；F：挾着のみである。

このように、両者がほぼ同じ頻度において（動）‘着’を使用したことは、中国語文の新たな傾向を示すと言えよう。もっとも、郭沫若は虚詞‘着’を魯迅よりも頻繁に用いた。

【Ⅱ　中国語原文】

ここまでは中国語訳文における‘（動）着’の用法を調べて来た。それでは中国語原文においては‘着’はどのように使用されたかを見てみよう。

【Ⅱ.1　游学家书】

郭沫若が日本に留学した1913年から23年までに記した《游学家书》[52] 68通の調査は次のようである。

（動）着　　似较沉着[53]

その他は‘着衣’の類例である。

52　郭沫若著　郭平英・秦川编注《敝帚集與游学家書》北京　中国社会科学出版社　2012.10，pp.171-360（但し、大高順雄・藤田梨那・武継平訳『郭沫若著　桜花書簡　中国人留学生が見た大正時代』東京図書出版会　2005年6月は唐明中・黄高斌编注《郭沫若　樱花书简　一九一三年至一九二三年家信》四川人民出版社　1981年8月に拠ったものである。）

53　《游学家书》二十一，p.202，l.7.

着皮衣[54]‖着棉衣[55]‖着毛卫生衣[56]‖着薄棉和衣[57]‖下着棉卫裤一件[58]‖不着用狐皮袄[59]‖着手专门研究[60]‖着花[61]‖叫着“攻击”[62]

（虚詞）　　带着二世兄[63]‖隔着半透明的纸[64]

しかし滞日末年1919年から20年の自由詩[65]において‘（動）着’が頻出する。

“抱和儿浴博多湾中”　（p.492）你看那西方的山影罩着莎罗

“某礼拜日”　（p.492）（二）戴着头上的阳光，｜望着濑户内海的海岸｜...｜戴着嫩黄的金珠，｜学者那海潮儿在动颤｜...｜（p.493）（三）围着一团儿百葺葺的花线｜（四）我们跑转去着携着他的手儿

“两对儿女”　（p.493）（一）我忙跑转去携着她的手儿　‖（二）我在路上又遇着了一对儿女｜...｜他才鼓着眼睛向我骂道：｜...｜还刺着我的脑髓

“一个破了的玻璃茶杯”　（p.493）（三）饱尝着

“黎明”　（p.493）海岛戴着太古时代的森林｜...｜（p.494）儿，还坐着囚笼｜

（p.495）你好安护着我们的灵魂｜...｜我们唱着凯歌

“解剖室中”　（p.496）要和着悲多汶的东风！｜要含着神曲篇的诗趣！｜...｜尸骸的当中蛆在涌着了！

散文における例を挙げよう。

（p.496）披着件缟素的衣裳...笑向着他…望着他们｜...遇着我买柴

さらに、彼はゲーテの詩の韻文訳においても、（動）‘着’を用いている。

“宇宙革命底狂歌”　（p.498）海水永远奏着革命底欢歌｜火山永远举着革命底烽火｜...｜你们是只好被湃着的潮流淘泻的么？

郭沫若は（動）‘着’を好んで使用するに至ったのである。406行の遺作の自由詩[66]“一位牧

54 《游学家书》四，p.178，l.13.
55 《游学家书》四十九，p.239，l.2.
56 《游学家书》四十九，p.239，l.2.
57 《游学家书》四十九，p.239，l.3.
58 《游学家书》四十九，p.239，l.4.
59 《游学家书》四十九，p.239，l.7.
60 《游学家书》五十二，p.243，l.13.
61 《游学家书》二十八，p.210，l.8.
62 《游学家书》六十，p.254，l.20.
63 《游学家书》六十，p.260，l.1.
64 《游学家书》六十五，p.262，l.4.
65 《郭沫若著译及研究资料　第一册》成都市图书馆　编印　1979年12月　六，郭沫若佚著目及部份全文抄录，pp.492-98.
66 人民日报1978年6月18日　郭沫若遗作　1-4 行.

羊人”の冒頭の3詩行に‘着’が繰り返される。

1　一位牧羊人，在一株大树下，看着一群羊子。他衔着烟头，身上背着一只猪抢。

2　一位牧牛童子，索着一只牛来了，一同休息在这株大树下，他手里拿着一枝，做鞭子。

3　牧羊人说：你拿着鞭子要打牛吗？　你不该使用暴力啊。童子问他，那你为什么要背着猪抢？

さらに、第10詩行には、他还责备着童子、第13詩行には对着童子がある。

郭沫若はこの語を明らかに白話の一要素と意識しているのである。

【Ⅱ.2　政治論文・演説文】

文学作品ではなく、政治論文・演説文において、郭沫若と毛沢東と周恩来の‘（動）着’の使用例を比較してみよう。

【Ⅱ.2.1　郭沫若】

資料1[67]

（動）着　　韻特征保持着，并扩大着

（動）着的　　而一直都还像活着的年轻人一样

資料2[68]

（動）着　　全体代表围绕着这三个议题进行了自由的民主的讨论

資料3[69]

（動）着　　我们祖国正在进行着伟大的社会主义建设要着重指出

（動）着的　　存在着的缺点确是很多

（動）着...的　　关心着科学工作的发展的采‖取着必要的措施‖冒着生命的危险‖存在着很不合理的现象被揭发

（虚詞）　　我们必须本着节约的原则

資料4[70]

（動）着　　向往着国家昌盛‖经历着一场伟大的复兴

資料5[71]

（動）着　　闭着眼睛表示着和平运动抱着怀疑的态度标志着和平运动进入了

67　在萧红墓前的五分钟讲演。这是1948年郭沫若在香港浅水湾萧红墓前对香港南方学院艺术系教师所做的一次即兴演讲。转自《中外名人著名演讲词选》文心出版社　1987.4.

68　关于世界人民和平大会的经过和成就的报告在中国人民政治协商会议第一届全国委员会第四次会议上的报告　1953.2.4.

69　在中国科学院学部成立大会上的报告来源：人民网　1955.6.2.

70　《科学的春天》在全国科学大会闭幕式上的讲话　来源：人民网《人民日报》1978.3.31.

71　关于世界人民和平大会的经过和成就的报告　一九五三年二月四日在中国人民政治协商会议第一届全国委员会第四次会议上的报告《人民日报》1953.2.4.

一个新的发展阶段

（動）着的　　体会着的

（動）着...的　　肩上荷着幼儿的父亲‖抱着婴儿的母亲‖打着各种不同文字的“和平”标语牌‖喊着各种不同语言的“和平”口号‖欢迎着各国人民的和平使者‖执行着扩军备战的侵略政策‖维持着残酷的侵略战争‖受着共产主义侵略的威胁‖坚持着和平政策的苏联‖控诉着美国侵略政策的影响

用例は（動）着、（動）着的、（動）着...的の三種に限定される。この傾向は、推測に反して、彼の故郷である四川地方の特徴ではない[72]。‘着’は被害の共示（connotation）をもつ場合がある[73]。なお、‘本着’における‘着’は虚詞と見做される（資料3を参照）。

【Ⅱ.2.2　毛沢東】

《矛盾論》（1937年8月）[74]において‘着’を次のように使用した。（数字は章と頁を示す）

（動）着　　互相关联着互相影响着（1.10）‖互相关联着互相影响着（1.10）‖包含着矛盾[75]（2.20）‖充满着矛盾（2.22）‖这种情形...存在着[76]（3.28）‖互相矛盾着（4.66）‖被迫着赞成抗日（5.73）‖一切矛盾都依一定条件向它们的反面转化着（5.74）‖存在着共性[77]（5.82）‖有着绝对的东西（5.82）

（動）着的　　矛盾着的现象[78]（2.22）‖对立着的方面为自己存在的前提（5.70）

（動）着的…了　　变化着的变化了（1.12）

（虚詞）　　带着自发的朴素的性质（1.14）‖当着我们清算了这种机会主义的时候[79]（1.14）‖接着说到（3.26）‖向着尚未研究过的或尚未深入地研究过的事物进行研究[80]（3.29）‖随着也就逐步地归於消灭

72　崔荣昌著《四川境内的客方言　上》漢語史與中國古典文獻學研究叢書　成都　四川出版集團巴蜀書社　2011, p.87：普通話表示動作實體的方式是在謂語後面加“着”（進行體），“了”（完成體）和“過”（經澧體）．四川客家話除表示曾經有過某種動作或形狀的經歷體用“過”（…）這一點跟普通話相同外，其餘均有所不同

73　邓英树・张一舟主编《四川方言词汇研究　北京　中国社会科学出版社　2009.12, p.21：“着”本是动词、是“遭遇到（不好的事情）”的意思、四川话现在仍有动词用法。如“地震的时候、他们家的人没着、只是房子着垮了．”参考：王文虎　张一舟　舟家筑　编《四川方言词典》成都　四川人民出版社　1987, p.456“遭”.

74　毛泽东《矛盾论》芝池靖夫訳注　江南書院訳注双書　8　東京　江南書院　1956. 记在开引用文的开头的数字指示章和頁行数

75　同種の用例：3.32, 3.44, 4.64, 5.70, 6.84.

76　同種の用例：6.88.

77　同種の用例：5.82（bis）｜6.84｜6.86

78　同種の用例：3.30｜4.60｜5.70（bis）｜5.71｜5.72（ter）｜5.73｜5.74｜5.80｜6.84.

79　同種の用例：1.14｜2.18｜4.66（bis）｜4.68（bis）｜5.80（bis）.

80　同種の用例：5.72（bis）.

了（4.62）

やはり用例は（動）着、（動）着的、（動）着的...了の三種に限られる。虚詞‘着’は帯着、当着、接着、向着、随着に現れ、当着を除き郭沫若に見られる。

【Ⅱ.2.3　周恩来】

資料1[81]

（虚詞）　当着资本家压迫工人谋生活改善的正当要求‖为着本党民众基础着想

資料2[82]

（動）着　革命的文艺工作者坚持着自己的岗位‖保持着从五四以来的革命的文艺传统

資料3[83]

（虚詞）　跟着新生的力量走

（動）着　带着八万多人的大队伍长征

資料4[84]

（虚詞）　跟着他犯了右倾机会主义的错误

資料5[85]

（動）着　遭受着殖民主义国家的压迫‖存在着双重国籍评持与我们的批评较

用例は（動）着に限られる。虚詞は当着、为着、跟着、带着の4種であり、跟着、带着の2種を郭沫若と共有する。

因みに、同世代の蔣中正の《中国之命運》[86]には次の2例を除き、‘着’の用例が見られなかった：着手於社會建設；已着着見於實施

要するに、郭沫若も毛沢東も周恩来も直裁・簡明を主眼とする論文・演説文においては、日本語に特有な種々の情動的表現（affectivité）に対応する‘着’を使用する必要がなかったのであろう。

なお、魯迅の日本語表現について、赤川真知子氏は翻訳文体「硬訳」は白話文体の創造に貢献したとする[87]。同じく、陳仲奇氏によれば、魯迅は日本語から語彙と語法の借用を

81　现时政治斗争中之我们　1926年12月11日

82　在中华全国文学艺术工作者代表大会上的政治报告　1949年7月6日（来源：人民网）

83　在北京市高等学校毕业生分配工作动员大会上的讲话　1950年7月11日（来源：人民网）

84　关于知识分子的改造问题　1951年9月29日（来源：人民网）

85　关于华侨的双重国籍问题　1956年6月4日（来源：人民网）

86　蔣中正《中国之命運》正中書局　中華民國三十二年三月　第五章　平等互惠新約的內容與今後建國工作之重心　第二節　國民今後努力之方向及建國工作之重點　p.136；p.137.

87　赤川真知子「魯迅の翻訳について」新潟大学アジア文化コース2006年度卒論（internet site による）。

借用して新たな白話文を想像したとする[88]。共に‘着’には言及していない。

結　語

郭沫若は日本語の文学作品を中国語に訳出するに当たって、‘着’の荷重を増加しつつそれを頻用し、自作の韻文においてもそれを愛用した。魯迅も同じ傾向を見せた。これは日本語の膠着性（agglutination）を中国語の孤立性（isolation）に対応させる手段であったとと同時に、新たな荷重を加えた‘着’によって白話の特質を創出する試みだったと思われる。しかし郭沫若は政治論文・演説文では毛沢東や周恩来の場合と同じく、‘着’の使用例を数種に留めた。このように政治論文・演説文において‘着’の使用が限定されたのは、陳述が論理性・説得力を主眼とするためであったと考えられる。

结　论

郭沫若在把日语的文学作品译成汉语的时候、加重（charge）并频繁地使用虚词‘着’、同时在自己的韵文中也呈现出对‘着’的偏爱。鲁迅作品中也曾出现这一倾向。我认为这是使用了日语的胶着性（agglutination）与汉语的孤立性（isolation）相对应的手法，通过给虚词‘着’赋予新的负荷来尝试白话文的语言形式。然而，郭沫若在谈论政治的文章中与毛泽东和周恩来同样，使用虚词‘着’的例句是有限的。政治文章、演讲稿限定‘着’的使用，其主要目的是为了增强陈述文的理论性和说服力。

参考文献

1　平山久雄“北京語の「着」とその接尾する動詞について”《中国語学88》 中国語学研究会　1959年 7 月　pp.4-6.

2　木村英树“关于补语性语尾‘着/zhe/’和‘了/le/ 2 ’”《语文研究》1983年　第 2 期　pp.22-30.

3　太田辰夫“中国語歴史文法”京都　朋友書店　昭和60年（1985）7 月　pp.223-25.

4　刘宁生“论‘着’及其相关的两个动态范畴”《语言研究》1985年11月（总第 9 期）pp.117-28.

5　梁玉璋“福建语‘着’的词性与语法功能”《语言研究》1990年 5 月（总第18期）pp.132-42.

6　杨永龙“汉语方言先蒔助词‘着’的来源”《语言研究》2002年 5 月（总第47期）pp.1-7.

7　彭利贞“论情态与‘着’的分化”《语言研究》2007年 6 月（总第67期）pp.90-98.

8　席嘉“动词性词组演化为顺承连词：‘接着’、‘跟着’”《近代汉语连词》北京　中国社会科学出版社　2010, p.64-6.

88　陳仲奇「魯迅作品における日本語的表現要素について」島根県立大学総合政策学会『総合政策論集10』，2005年12月，p.69.

9　　罗自群 “汉语方言 ‘著’ 类持续表示的地理分布特点”《语言研究》2011年 4 月（总第83期）pp.56-63.

末筆ながら、中国語の解釈と文献の探索について于亜氏（大手前大学非常勤講師・神戸大学学術博士）のご教示を受けたことに衷心から謝意を表す。

【補遺】

郭沫若の筆名

郭沫若は郭開貞（本名）を含む63の筆名を用いた。

【1字】沫　鼎［計2］

【2字】龙子　安娜　定甫　沫若　夏社　吴诚　白圭　爱牟　石沱　李季　杜荃　鼎堂　有孤　高鸣　于硕　杜衍　坎人　沫若　尚武　文豹　八儿　谷人　江耦　蒙侄　羽公　开贞　白龟　蒙生　蒙倛　M.J ［計30］

【3字】牛何之　羊易之　丁汝成　郭鼎堂　郭麦弱　郭开贞　郭沫若　郭石沱　郭爱牟　麦克昂　杨伯勉　杨帛勉　杨意芝　高浩然　高汝鸿　林守仁　杜顽庶　易坎人　石沱生　王假维　蒙其生　克拉克　［計22］

【4字】汾阳主人　蒙倛外史　蒙其外史　竹君主人　戎马书生　佐藤和夫　藤子丈夫　佐藤貞吉　［計8］

【6字】　阿和乃古登志　［計1］

根拠：http://www.chundeng.com/micai/rwcw/542.html